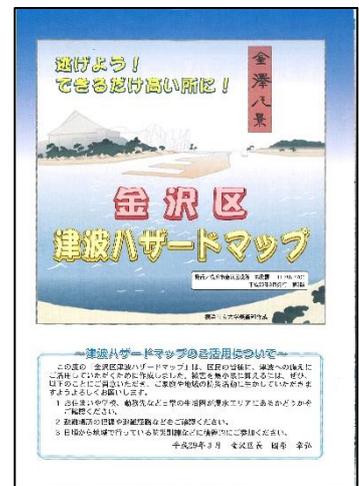


風薫るさわやかな季節になりました。1年のうちでも過ごしやすい時期です。学年が上がり、クラス替えをして友達や担任が変わるなど、新しいことの多い4月は子どもたちにとって緊張することも多かったことでしょう。5月になると、連休があって、気候もよく、明るい日差しにわくわく感が高まります。マリンフェスタにスポーツフェスタと、全校児童で取り組む行事も楽しみです。

5月にはもう一つ、全校で取り組む行事があります。わくわく感はないのですが、大事な行事「大津波避難訓練」です。10分も歩けば砂浜に着く金沢小学校としては、海が近いことはとても魅力的なのですが、地震による津波の心配があります。実は、私が着任した年に、横浜市の危機管理の地域防災担当の方に来ていただき、津波を想定しての避難経路を相談しました。

神奈川県は、これまで起こったいくつかの大地震から津波を想定し、その中でも横浜市にとって浸水面積及び浸水深が最大となる「慶長地震」をモデルに「津波ハザードマップ」を作成しています。（「慶長地震」は、江戸時代初期の慶長年間に起こり、大きな津波が押し寄せたと考えられています。）それによると、マグニチュード8.5相当の地震が起こったと想定して、予想される最大津波の高さは約4メートル、満潮時に到達する海拔は約4.9メートルとなっています。金沢小学校の屋上は手すりがないので避難できませんが、3階の床面までの高さは8メートル弱あるので、全員が3階に避難できれば外へ避難しなくても大丈夫だろう、というお話をいただきました。ハザードマップでは、金沢小学校は「津波避難施設」になっており、地域の方々も避難してくるようになっていきます。



それでも、想定より大きい津波が来ることや、地震による校舎の損壊などを考え、外に逃げる場合の避難場所も考えました。候補は「称名寺」と「西柴スポーツ広場」。相談した結果、称名寺に行くために通る住宅密集地は火災等の心配があるので、海寄りであっても西柴スポーツ広場の方がよいだろう、というアドバイスをいただきました。そしてそれ以降、金沢小学校の大津波避難訓練の避難場所は「西柴スポーツ広場」になっています。（想定していても、実際は、津波の到達までの予想時間や全校児童の移動時間、避難経路の状況なども考え合わせて避難することになります。西柴スポーツ広場が絶対ではないことをご承知おきください。）

「大津波避難訓練」は5月13日に児童と教職員で行います。その日の午後は、保護者の皆様に児童を引き取りに来ていただく訓練「保護下校訓練」を実施します。雨天の場合、「大津波避難訓練」は校内での訓練に替えますが、保護下校訓練は実施しますので、よろしくお願いいたします。